

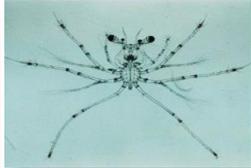
# イセエビ人工種苗の放流技術の開発

～発信器による詳細な調査により放流後の行動を明らかにしました～

イセエビは沿岸漁業の重要な対象種であり、資源の増殖に用いる稚エビを人工的に生産するための研究が長年実施されてきました。その結果、放流に用いることが可能な稚エビを生産できる段階になり、人工生産した稚エビに発信器を装着し、放流直後の詳細な行動調査を実施しました（京都大学フィールド科学教育研究センターとの共同研究です）。



県のさかな「イセエビ」



イセエビの幼生



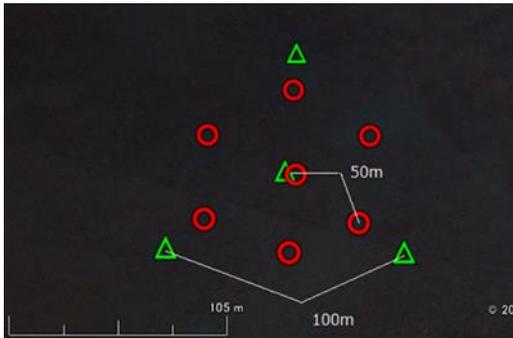
稚エビ

## 発信器を装着したイセエビ



- 人工稚エビと天然稚エビの甲羅の部分に接着剤で発信器を装着し、潜水により志摩市地先の魚礁に放流しました。

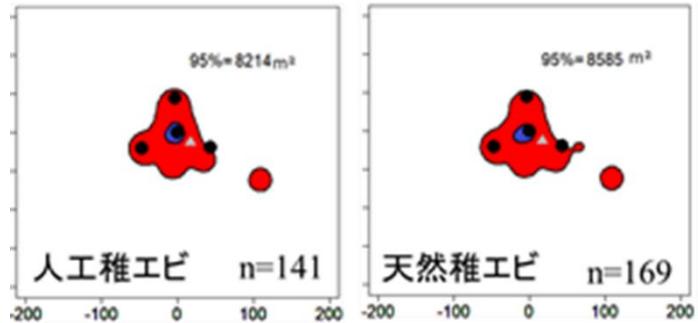
## 受信機の設置例



- 放流場所（魚礁）を中心にして、周囲約200m四方に複数の超音波受信機を設置しました。



## 稚エビ行動範囲例（95%行動圏）



- 人工、天然稚エビともに、昼間は魚礁に隠れ、夜間は行動する夜行性であることと、放流場所である魚礁周辺に定着していることが確認されました。

## 今後の課題

- 今後は、稚エビと漁獲サイズのイセエビに発信器を装着して放流することで、サイズにより行動の違いや漁場の利用方法に違いがあるかどうかを調べ、放流技術の開発や効果的な漁場の造成に結びつけていきます。



三重県水産研究所 沿岸資源増殖研究課

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒517-0404 志摩市浜島町浜島3564-3

TEL (0599)53-0016

FAX(0599)53-2225